

マネージメント  
ニゴース

人事労務

A 日頃の人間関係を大切に

この事例を検討してみると、考慮すべき点が大きく四つ考えられます。

① 矛盾に対応する能力を  
つげさせる

若年者であればあるほど、社会での矛盾に対応する力が足りません。A君も実績と評価が比列しないという矛盾に対応できず、結果として自分の評判を下げてしまいました。俗にいう「世渡り」を伝授するのも、精神面を強くすることにつながります。

② プライバシーの保護、  
社員の意思を尊重する

A君の鬱病の要因に、プライベートでの悪いことが、社内に広まったというものもありました。彼は上司に相談したのですが、それがびよんなことから周

囲に知られてしまい、さらに傷つく結果になりました。故意でないにせよ、経営者、または上司として、職務上知り得た社員のプライバシーを保護することは重要です。

③ 誰もが抱える問題である  
ことを、社内に認識させる

復帰したA君は、必要以上にほかの社員に気を使われたり、逆に邪魔者扱いされ、症状を悪化させていきました。それは、自分の症状は異常なものとして、感じさせられたからだと考えられます。鬱病の対応策として、特別扱いしないというのは基本的なものとしてされています。社員全員が、自分にも簡単に起こりうることだと認識し、その初歩的な対応策程度は理解していることが大切です。

④ 緊急事態が予測される時は  
放置しない

最終的なA君の行動は、やはり異常なものでした。鬱病患者に「頑張って」と声をかけると、頑張つて自殺してしまうと言われておりに、尋常ではない行動をとってしまうことが充分考えられるのです。会社の者が監視するのは無理でも、家族や病院に連絡するなどの対応が必要と思われまます。

A君のケースは、結果論となつてしまいました。また、実際同じような事例が起こった時、思ったとおりに対応できるかどうかはわかりません。

鬱病などの問題を起こさないようにする基本的なことは、普段の人間関係ではないかと思えます。経営者と社員という関係の前に人と人です。お互いにこの認識を持つことにより、メンタルヘルス不全の危険性は少な

PROFILE

著者紹介 蝦名 和広



1979年北海道生まれ。2001年北海道大学の経済学部を卒業し、社会保険労務士、行政書士試験に合格。社労士法人などを経て現在、蝦名社会保険労務士・行政書士事務所(札幌市西区)・所長。札幌商工会議所確定拠出年金推進委員。人事・労務管理の実務化集団SRアップ21所屬。

くなるのではと感じます。経営者も結局、人です。社員のメンタルヘルスばかりではなく、ご自身のメンタルヘルス対策も充分考慮し、ご自愛頂きたいと思えます。

人事労務トラブルシューティング! 第2回

社員がある日鬱病に!  
解決方法と未然の予防は?

SRアップ21北海道 社会保険労務士/ 蝦名 和広

INTRODUCTION

産業経済の大きな変革期で構造改革が進行中の現在。大競争時代のビジネスには、何より従業員の資質が重要になってきます。しかし、どんなに優秀な人材でも、心身ともに健康な状態で職務に就かなければ、会社の業績向上には結びつきません。従業員の持つ能力を十分に発揮させるためにも、本人が「健康であること」が重要なのです。体調管理というのも昔から推進されているものですが、心の病というのは、その実態が世間一般に広く知られておらず、「メンタルヘルス対策と言われても…」と、とまどう経営者の方も多いかと思えます。そこで事例を挙げ、重点を絞って解説いたします。

Q 今年入社した新入社員が鬱に

大学卒業後、アルバイトをした後、中途採用されたA君は、少しアルバイトが高く、はっきり物事を言い過ぎるところがあり、しかも、仕事に対して非常に意欲的で、希望の部署に配属されるように実績を上げてきました。

誰もが、彼は希望部署に配属されるだろうと思っていた人事異動でしたが、A君の名前はありませんでした。理由は、上司の「生意気で使いくそうだから」という評価からでした。よ

また、努力はしますが、周囲に不満をぶつけながら仕事をしていたため、実績が上がっても評判が下ががり、努力が空回りしています。さらに、アルバイトでも婚約解消など悪いことが続き、ストレスで体調を崩しました。

自分に自信がなくなった後は、引きこもり気味になり、仕事も休みがちになりました。ほかの社員の負担が増えるということもあり、転職へ移され、更にアルバイトが傷つき、鬱病になってしまいました。

病院で薬をもらい、治療しながら、仕事を続けていましたが、腫れ物に触るような会社社員の対応や邪魔者扱いする一部社員の態度で、さらに深く悩むようになり、強い薬を服用していました。ある日、彼は些細な事で激昂し、泣きながら会社を飛び出しました。数時間後に戻ってきた、ほかの社員に謝り、帰宅しましたが、家で大量の薬のみ、意識が朦朧とした状態で、道路を歩いていたところを保護されました。結局、専門病院での長期入院を余儀なくされたという結末になってしまいました。